



日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和8年 4月 8日

第 1 号

さいたま市立日進中学校

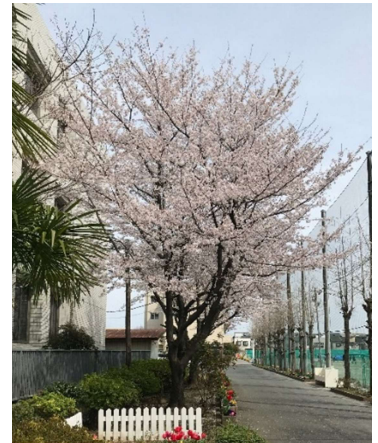
TEL 048-663-1251

FAX 048-663-0834

春風接人 秋霜自肅

校長 長岡有実子

令和8年度は、新入生280名を迎え、全校生徒802名、25学級（1年生8学級、2年生7学級、3年生7学級、特別支援学級3学級）、教職員68名でスタートしました。また本年度は、昭和22年に大宮市立第三中学校として開校した日進中学校が、創立80周年という大きな節目を迎える年でもあります。生徒一人ひとりが母校に誇りをもち、ますます日進中学校を盛り上げていけるよう、そして保護者や地域の皆様方にとっても、本校を誇りに思っただけの一年となるよう、教職員一同、一丸となって教育活動に取り組んでまいります。



さて、表題の「春風接人 秋霜自肅（しゅんぷうせつじん しゅうそうじしゅく）」は、江戸時代末期の儒学者で、朱子学や陽明学の大家である佐藤一斎の言葉です。「春風のような温かい心で人に接し、秋の霜のような厳しきで自らを律する」という意味があり、言い換えると、「人には優しく、自分には厳しく」という教えです。この心構えは、人として常に大切にしていきたいものですが、人間関係に変化が多いこの時期には、特に心に留めておきたい言葉だと感じます。私自身も、多くの方々に支えられ、ときにはご迷惑をおかけしながら今日まで歩んできました。その場でお返しができなかったこともあります。今、共に過ごす方々一人ひとりに心を配ることで、巡り巡って恩返しとなると自分に言い聞かせています。世の中には、自分には甘く、人には厳しい人もいますが、そのような姿勢からは、次第に人が離れていってしまうものです。

1年生は中学校生活の新たなスタートを切り、2・3年生は進級し、新たな仲間や先生方との学校生活が始まります。思うようにいかないことや、くじけそうになることもあるかもしれません。そんなときこそ、周囲の人に対する接し方を大切にして、この言葉を心の片隅に置いてほしいと思います。

春は、別れと出会いの季節です。別れには寂しさもありますが、新たな出会いには希望と期待があります。この出会いを大切に、それぞれが新たな一歩を踏み出していきましょう。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校